

# 要ヶ丘



発行

海士町立海士中学校

住所 海士町大字海士九四四番地

TEL 08514(2)0744

E-mail ama-jihs@town.ama.shimane.jp

## 第四十六回海士町立春式

二月四日(土)、隠岐開発総合センター島民ホールにて、第四十六回海士町立春式が行われました。今年度は留學生を含めた十二名がこの式に参加させていただきましたが、これまでの自身を振り返り、それぞれの将来やこれからの生き方について真剣に考えるよい機会になりました。自身の思い描いた夢を叶えるために、それぞれが自覚と責任をもって、これからの時代を支える大人へと成長していつてほしいと思います。

下記に生徒の感想を紹介します。

【教員】



僕は今年立春を迎え、立春式で少年の主張の代表者となりました。そこで、僕は将来についての今の自分の気持ちと自分の性格について話しました。自分の性格について話することは、自分にとってとても勇気が必要なことでした。でも、当日はリラックスして発表することができました。原稿を読むにつれて、辛かったこと、母への思いなどが込み上げてきて泣きそうになりましたが、なんとか無事に終えることができました。勇気がいる発表でしたが、発表をして自分が少し「大人になれた」ような気がするの良かったです。とても良い立春式になりました。【男子生徒】

先日、立春式がありました。私は少年の主張の代表者に選ばれ、これからの自分について主張しました。本番前に風邪をひいて学校を休んでしまったので、十分な練習はできなかったけれど、本番では将来に向けてしっかりと自分の気持ちを発表できたので良かったです。立春式で主張したことを、これから少しずつ達成していけるように、たくさん努力していろいろなことに挑戦していきたいです。立春式を迎えることで、自分の将来について考えるきっかけになったし、これからのように過ごしていきたいか考えることができましたので良かったです。【女子生徒】

【女子生徒】

僕は今回の立春式で改めていろいろなこと気が付きました。今自分自身がするべきこと、将来についてのことなど、立春式のおかげでたくさんすることを考えることができました。正直僕は人前に立つことが苦手なので、発表の代表者に選ばれたことは辛いことだったけど、「たくさん人の前で自分の将来について話せるチャンスもらった」と思うことで、今では発表できたことをプラスに考えています。今回の立春式を迎えるまでの中で学んだたくさん活かし、立春式で発表したことを忘れず、今過ごしている時間やこれからの時間を大切にしていきたいです。【男子生徒】

【男子生徒】



## 一年生総合ドリムプラン

### プレゼンテーション

一年生のドリムプランプレゼンテーションでは、将来就きたい職業や興味のある職業について総合的な学習の時間で調べたことや、その職業に興味を持った理由、今の自分に必要なことなどについてそれぞれがまとめた資料をもとに発表をしました。将来について具体的なことはまだわからないという人が大半でしたが、どんな職業があるのか、今の自分がしたいいけないことは何かを考える上ではとても良い学習になったと思います。これからはいろいろなことに興味を持ちながら、将来について考えてほしいと思います。下記に生徒の感想を紹介します。【教員】

【教員】

私は、今自分が頑張りたいことについて発表しました。私はまだ、将来の夢がはつきりしていません。だから、まずは自分の長所や短所から今の自分がしたいいけないことや、どんな職業が向いているのかを考えてみました。そして、どんな職業でも学力やいろいろな知識が必要だということがわかりました。だから、自分が将来就きたい職業を見つげるためにも、いろいろなことに興味を持ち、学校の勉強も頑張りたいと思います。【女子生徒】

【女子生徒】

私は、今回の学習で、美容師という仕事について調べてみました。私は実際、美容師になりたい！という強い気持ちにはなかったのですが調べていくうちに、私が憧れを持っている仕事を見つけたことができたり、今まで知らなかった仕事について知ることができ、美容師についての知識を増やすことができましたので良かったです。これからも、自分が興味を持っている仕事を見つけたら、その仕事がどんなものなのか調べてみたいと思いました。【女子生徒】

【女子生徒】

【女子生徒】

### 一年生英語遠隔授業

二月三日(金)、本校一年生と、山口県周防大島町立安下庄中学校の一年生がタブレットPCを用いて、英語科の遠隔交流授業を行いました。本校では、今年度タブレットPCを導入し、ICTを活用した教育活動の充実を図ってきました。今回のこの企画は、隠岐国学習センターとNTTドコモの協力、支援により実現し、タブレットPCの実用性とさらなる可能性を実感しました。左記に生徒の感想を紹介します。

【教員】

遠隔授業で最初はすごく嫌だ嫌だと言っていて本番もすごく緊張しました。始まった時、安下庄中学校の生徒はテンションが高くて少し緊張が和らぎました。しゃべる時に僕の声が相手に聞こえないアクシデントがあったけど、うまくしゃべれて良かったです。最後には、緊張もなくなっていて、笑って英語で会話することができて良かったし、楽しかったです。

【男子生徒】

今回、遠隔授業を受けてみて、初めて会った人と英語で話すなんて初めての経験だったので、とても緊張しました。山口の周防大島の生徒が積極的に話しかけてきてくれたので、とてもやりやすかったです。僕は周防大島のことを知ることができましたし、安下庄中学校の生徒達には海士のことを知ってもらおうことができたので良かったです。

今後、このような活動があるかわからないけど、もつと海士のことを知ってもらえるようにしたいです。

【男子生徒】



### 来年度新入生一日入学

去る二月十六日(木)、一日入学を行いました。保護者の方を対象にした学校説明の後、六年生保護者とも全学年の授業を参観してもらいました。この後、後期生徒会役員による六年生へのパワーポイントを使った学校説明、保護者の方には、浦郷警察署の堀江隼平氏を講師に招き情報モラル研修会を実施しました。その後、部活動体験を行い、全日程を終了しました。来年度本校への入学予定の児童は、十四名(福井小八名、海士小六名)入学式は四月十一日の予定です。新入生の入学を心待ちにしております。【教員】



### 知夫中学校との交流活動

二月七日(火)、二十三日(木)に、知夫中学校の二、三年生計七名が来校し、本校生徒と交流活動を行いました。三年生は、給食時から活動をとにし、スクールカウンセラーの吉村栄典氏によるストレスマネージメントの授業を受け、二年生は、大学生五名を招いて、キャリア教育の授業を行いました。普段は部活動などではしか顔を合わせることのない生徒同士ですが、活動が始まると、お互い積極的にコミュニケーションを取ろうとしている様子が感じられました。島前内の他校の生徒との交流を深める良い機会となりました。【教員】



### 校内球技大会

二月十七日(金)、保健体育委員会企画の球技大会が行われました。体力向上と異学年交流をねらいとし、保健委員長を中心に準備を進めてきました。当日は三年生や先生方にも協力していただきながら、楽しく充実した大会となりました。【教員】



### 球技大会でバスケットをしました。



初めての球技大会で上手くできるかどうか心配でしたが、全校のみんながスムーズに動いてくれて、時間通りに進めることができました。どの試合もとても白熱していて、見ていてドキドキするような試合がたくさんありました。また試合を通して、他学年同士の会話もたくさんあり、とても良かったと思います。これからもこのような活動を通して、体力の向上と全校の交流を深めていきたいです。【保健委員長】

### 第五回しまね小中学生新聞コンクール

○入選 二年 男子生徒

### 教員による随想「さとり世代」

先日、携帯のアプリでニュースを見ていると「さとり世代」を見ることをやめる「見出しで二〇一七年の「将来就きたい仕事に関するアンケート調査」が発表されていた。六歳から十五歳の男女を対象としたこの調査、女子のランキング一位は三年連続の「パティシエ」だったが二位は僅差で会社員。男子の一位は二位のサッカー選手にダブルスコアをつけて会社員だった。歴代のこのランキングの上位はスポーツ選手で占められていたような気がするが、近年は会社員が大きく躍進しているらしい。えらく現実的

なランキングになったものだなと思う。「さとり世代」とはインターネット上で命名された世代で「ゆとり世代」後の世代、今の子供たちをさす。マスコミが流用することで世間に認知され、二〇一三年の流行語大賞にもノミネートされた。「さとり世代」についてちよつと調べてみると「物欲が無い」「高望みをしない」「合理性を重視する」という特徴があるらしい。不況しか経験のない世代で、物心ついた時から無駄な消費をしない事が板についており、インターネットを利用して育ってきていることから現実への知識が豊富で、社会に対する見方もシビアだという。ランキングとの整合性もあり、なるほどと思った。

「さとり世代」というのはあくまで作られた言葉でしかないが、その時々の社会の経済状況や世相をよく表しているし、国の教育の指針も大きく影響していると感じている。例えば「ゆとり世代」は二〇〇二年度に行われた学習指導要領による「ゆとり教育」を受けた世代。その前の私達の世代は学習指導要領改訂前で、「詰め込み教育」の終焉の世代。全国的に中学生の暴力事件や犯罪が多発、マスコミから「キレる世代」と呼ばれた。今の子供たちも、社会の影響や、教育の影響を受けながら成長し、大人になると考えると教育現場にいるものとして身が引き締まる思いがした。偶然にも同じ日、社会の欄のニュースには「文部科学省天下り新たに十七件の法律違反」の見出しが・・・。「さとり世代」の子供たちの目にはこのニュースがどのように映るのだろうか。